

平成23年度教育委員会事務点検評価(平成22年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

整理番号 8

事務事業の名称	図書館管理運営事業		担当部課	教育委員会 生涯学習部 中央図書館		
			電話番号	04 - 2954 - 4646		
実施期間	昭和 63 年度 ~					
総合振興計画における位置づけ	5章	人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H22~24)事業名	個別計画等の名称		
	1節	生涯学習の振興				
	1項	生涯学習の推進				
	2目	生涯学習の機会や場の拡充				
実施根拠	図書館法、狭山市立図書館設置条例、狭山市立図書館管理運営規則					
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務					
事業開始の背景等	昭和40年代の人口急増に伴い、生涯学習施設としての図書館の果たす役割は年々大きくなり、利用者も増え、市民の図書館に対するニーズも増大する状況にあった。そこで昭和63年に旧市役所を改修して移転するとともに、平成5年に狭山台図書館を開館した。					

2 事務事業の目的・内容

目的	市民の文化・教養・調査研究・レクリエーション等を支える施設として図書資料等の整備とレファレンスサービスの充実を図り、利用者のニーズに応える。					
対象	市内在住在勤在学者・所沢市民・飯能市民・入間市民・川越市民					
活動内容	資料の収集及び保存、資料の利用及び貸出、移動図書館の運行、他市・他県の図書館との資料の相互貸借、読書案内・相談及び調査研究に対する支援、視聴覚資料の収集及び貸出、幼児・児童を対象としたお話し会や映画会の開催、図書館ボランティア及び学校・公民館等との連携協力。					
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価)		継続			
環境配慮	自主事業や各種事業の開催にあたり、車での利用は控え、公共交通機関を利用するよう呼びかけている。また、パンフレット等を作成する際には再生紙を使用し、印刷は必要最小限の部数としている。					
実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()					

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	目標値の根拠・考え方
(実施状況指標)	所蔵資料数	目標値	点	592,778	607,281	621,831	634,237	過去3年間の増加資料数の平均値に前年度の所蔵資料数を加えた値
		実績値		594,061	608,603	620,631		
		達成率		100.2%	100.2%	99.8%		
	目標値							
(成果指標)	貸出資料数	目標値	点	787,205	782,216	813,002	877,472	過去3年間の貸出資料数の平均値
		実績値		786,620	879,446	966,352		
		達成率		99.9%	112.4%	118.9%		
	目標値		282,970	279,843	280,419	280,176		
利用者数	実績値	人		278,444	284,794	277,291		過去3年間の利用者数の平均値
	達成率			98.4%	101.8%	98.9%		

4 事業費

区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	
		予算額	千円	98,219	96,439	108,001
経費	直接費	決算額	千円	97,979	96,315	94,281
		財源内訳	国県支出金	千円	0	0
	その他特定財源		千円	7,941	6,302	18,039
	一般財源		千円	90,038	90,013	76,242
	人件費	従事職員数	人	11.00	12.00	13.00
		人件費(従事職員数×平均給与)	千円	100,914	110,340	116,883
事業費計(直接費決算額+人件費)		千円	198,893	206,655	211,164	
効率性指標	指標名	利用者数	人	278,444	284,794	277,291
	単位コスト	利用一人当たりの経費	円	714	725	761

5 事務事業の評価

◆第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	4 前年度 4	市民の文化・教養・調査研究・レクリエーション等を支える施設として、図書資料等の充実やサービスの向上を図り、利用者のニーズに的確に応えていく必要がある。
	有効性	4 前年度 4	利用者数のわずかな減少が見られるが貸出資料数は増加している。所蔵資料数も充実してきておりリクエスト、予約件数、調査相談件数はここ数年増加傾向にある。今後も利用者のニーズを的確に捉えた蔵書構成と運営を行い、図書館利用を促進する必要がある。
	効率性	4 前年度 4	臨時職員の活用により、職員体制の効率化を図り、人件費にかかるコスト削減が図られている。
<5段階評価> 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い			
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了		
今後は、利用者からの多様なニーズに対応したレファレンス(調査・相談)業務の充実、多様な情報の入手と提供等を通じて、地域を支える情報拠点として、魅力ある図書館づくりを一層進めていく。			

6 その他(学識経験者の意見等)

図書館を利用する人々に対する「利用者教育・学習」「レファレンスガイド」「読み聞かせ講座」など、図書館独自の企画事業を展開し、利用者のニーズに対応するとともに、新たなニーズ開発事業も求められるであろう。情報化社会の中で、パソコンによる情報の入手は、図書館のあり方に変化を与えようとしているが、司書等の専門性を持った職員の対応が求められる。ブックスタートなど新しい試みに取り組む自治体の例もあり、狭山市らしい特色のある取り組みにも目を向けてもらいたい。この市における図書館の在り方を長期的な視野で検討していることと思うが、電子化の動向など、図書館の世界も変動している。その辺りにも目配りをして欲しい。